新しい文化財が仲間入り
～令和５年度鹿児島県指定文化財～

文化財課

令和５年度県指定文化財

令和５年５月２日に，県指定文化財として６件を指定しましたので紹介します。これで，県指定文化財は合計463件になります。

有形文化財（４件）

大慈寺書院

志布志市に所在する禅宗寺院の伽藍（建造物）にみられる「書院」で，江戸末期（慶応元年）に建設されました。近世の寺院建築は，廃仏毀釈によって全国的に数が少なく，この大慈寺書院は本県で認められる唯一の近世寺院建築として大変貴重なものです。

さつま町の木造僧形坐像（伝島津尚久像）

この像は，作風から南北朝時代（14世紀半ば頃）に京都の仏師 法印康俊，あるいはその工房で制作されたと考えられます。康俊は仏像彫刻史の中心に位置した「慶派」の仏師で，本県では初めての発見です。島津尚久像として伝えられており，廃仏毀釈を避けるため，こう呼ばれてきた可能性があります。

原田古墳群３号地下式横穴墓出土品

志布志市有明町に所在する原田古墳群の３号地下式横穴墓からは，短甲（よろいの一種），鉄剣，鉄鏃，刀子など合わせて40点あまりが出土しました。これらの資料は，当時の肝属平野の地域間の交流関係や，中央政権とのつながりを考える上で重要なものです。

敷領遺跡出土品

指宿市十二町に所在する敷領遺跡は，874年３月25日（貞観16年３月４日）とされる開聞岳の火山灰により埋没した集落遺跡です。建物内から県内初のカマドと石組炉を組み合わせた調理施設が検出され，土師器，成川式土器，須恵器が出土しました。これらは，九州南部と外来系の土器が同時に使われていたことを示し，国家体制に組み込まれた九州南部の様子や，火山災害の様子を伝える貴重な資料です。

史跡（１件）

原田古墳

志布志市有明町に所在する直径が約40～47ｍの円墳で，県内の円墳では最大級です。出土した土器から，５世紀前半頃に造られたと分かりました。同時期に造られた，前方後円墳である横瀬古墳（大崎町）を中心とした，肝属平野における地域間の勢力関係などの様子を考える上で重要です。

天然記念物（１件）

日置市吹上町の大汝牟遅神社の「千本楠」社叢

参道東側に「千本楠」と呼ばれる，クスノキなどの巨木が約20本茂っている社叢（神社の森）があります。大クスは県内各地で見られますが，このように１か所に十数本の古い大クスが集中しているのはあまり例がありません。地を這うように横へ延びる大きな枝が多いことも，独特な景観を作り出しています。